

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成21年2月27日
事業所名	グループホーム輪楽笑Ⅱ
事業所番号	2372501193
記入者名	職名ホーム長 氏名 長瀬貞次
連絡先電話番号	0568-52-1719

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域の方々との関係を重視し、サービスの質の確保と向上に向け 利用者・家族の希望に沿って私たちは「 地域で暮らし続けることへのサポートをします。 」「 自分らしく生きるためのサポートをします。 」「 頑張らない でもあきらめるな! 」「 みんな一緒になって暮らそう、笑いがある生活 」	○ ・利用者とスタッフの関係は、「してあげる」「してもらう」の一方通行的な関係ではなく、常に同じ目線で感じることができるようになっています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・月一回職員全員参加による全体会議や毎朝のミーティング場で、理念を理解し共有することの大切さを話し合い、実践に取り組んでいます。	○ ・散歩中やスーパーへの買い物など、一日の生活の中で「サポートするんだ」「でしゃばりすぎない」を実践しています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ホーム開設以来、地区社協主催の月1回開かれる「元気の出る会」に欠かさず参加し、地域の交流を大切にしている。 ・家族については、毎月発行している「輪楽笑Ⅱだより」や、ご家族参加のクリスマス会やイチゴ狩りで理解を深めていただくよう実践しています。	○ ・「元気の出る会」に引き続き参加して、地域の方々との交流をより深めていきたい。 ・「輪楽笑Ⅱだより」を利用して理解していただく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩している地域の方々に「おはようございます」「こんにちは」「おやすみなさい」の挨拶を積極的に実践しています。 ・受診時の待合室で近隣の方に気軽に声をかけたり、利用者と職員と一緒に隣の家へ回覧板を届けるなど、地域住民とのふれあう機会を持つようにしています。	○ ・時々施錠している門扉は、近所の人が入りにくいと思いますので可能な限り開放していきたい。 ・気軽に「お茶など飲みに来てください。」などの挨拶をしています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ホーム開設以来、地区社協主催の月1回開かれる「元気の出る会」に欠かさず参加し、地域の交流を大切にしています。 ・地域のクリーン作戦に参加したり、近くの公園及びその周辺の美化運動を月1回以上行っています。 ・夏祭りの盆踊り大会など地域の行事には参加し、地域の方の理解で会場内まで車を誘導してくれます。	○ ・散歩しながらゴミ拾いをするなど、地域の美化運動を継続していきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域包括支援センター主催の介護教室に講師として参加した。	○	・地域包括支援センターと連携して、散歩しながら高齢者世帯の見守り（挨拶、安否確認）をする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の指摘事項は改善している。 ・研修会での資料を基に勉強会を実施している。 ・自己評価により少しづつですが改善されている。	○	・月一回開催される、地域の社会福祉協議会主催の「元気の出る会」に参加して、地域の方々との関係を構築しています。会に参加されている複数の会員の方々から、自宅でとれた野菜などいただくようになりました。 ・職員をチーム化し具体的な改善に取り組んでいます。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・開催回数も少ない。推進会議では経営報告や利用者さんの生活現状などは報告してます。クリスマス会やバス旅行などの場を利用し、ご家族や推進委員にホームの現状を報告しています ・外部評価がありました程度しか報告していません。自己評価の報告も話し合いもされていない。	○	・開催回数を増やします。高齢者、認知症の人が地域の中で暮らし続けることの可能性や課題を具体的に話し合う機会とし、具体的な話題を通して付き合いを広げていきたいと思えます。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市の介護保険課へ利用者と一緒に出向き、代行申請や家族の相談についてのアドバイスを受けること等、必要な連携は取れている。	○	・連携を密にし、利用者、家族、ホームの悩み事を打ち明け解決していきます。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・地域の居宅事業者での資料を職員に供覧しました。	○	・地域権利擁護事業や成年後見制度について、供覧するだけでなく、学ぶ機会を設けていきます。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・「ダメ」「いかん」「待ってね」は、ほぼスタッフ全員が口にしてはいますが、以前からですと確実に減少しています。スピーチロック（喋れないようにする）も虐待の一つを全員で確認しています。	○	・虐待防止関連の資料で職員に知ってもらう機会を作っていきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約書での退去理由の一つに、7日以上の上院が必要と判断した場合とありますが、ご家族との話し合いで一カ月以上待つなど、入退去時十分な説明をしています。 ・常にご家族と直接お会いし、ご家族の立場に立って行っています。	○ ・管理者にはリーダー研修を受講し、指定認知症対応型通所介護を実施に向け検討していきます。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日常生活において十分注意しています。	○ ・利用者の日記帳を活用し自由に感想や意見を書いてもらう。 ・自分からは考え付かない方も多いため、尋ねる機会を作る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月写真入りの「輪楽笑だより」を発行し、利用者の個々にあわせた暮らしぶりや健康状態を報告しています。 ・領収書を一月まとめ現金出納帳の写しと一緒に家族に渡して現金管理をしています。	○ ・「輪楽笑だより」を家族に直接渡し家族との関係を引き続き重視していきます。 ・金銭管理についても毎月家族の確認を受けていきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホームへ家族が来所した折には、ホーム長、職員の方から、その利用者の日頃の生活状況を伝えると共に、家族の思いや苦情を聞き出すように努力しています。緊急のことについては毎日のミーティングの中で話し合い、運営に関することは全体会議の中で共有し、ホームの向上に努めています。	○ ・前回できなかった意見箱を設置し、利用者・家族が自由に感想や意見を書いてもらう。 ・家族会については、設置について賛否両論が家族でありますので、設置に向け取り組みます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の全体会議で意見交換し反映させています。 ・運営者、管理者が言うことだからと、鵜呑みにしてしまう。	○ ・運営者、管理者はどういうホームにしたいのか、という思いを常に職員に伝える。思いが世間一般の介護の常識、方向性に逆行することがないよう研修等を定期的にする。職員は運営者の言葉通り「考える介護士」になることを常に頭に置くようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・運営者（管理者）やホーム長がフリーの状態、利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応をしています。 ・職員は休暇希望を事前に提出しもらい、できる限りの配慮はしている。	○ ・一人ひとりの生活パターンにあわせた、早番（8時から）と遅番（13時から）のシフトを組んでいます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の離職者は少ないが、利用者へのダメージを防ぐためには、常に、介護記録、申し送りノート、業務日誌等により、職員間で情報の共有に努力しています。	○	・現在三人が一組のチームをつくり、利用者の部屋割り担当を6カ月交代で決め、ケアプランの見直しから部屋の清掃や整理を利用者と一緒に行い、なじみの関係を継続していきます。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ホーム長がグループホーム連絡協議会の役員として加わり、協議会主催の研修には必ず参加し、ミーティングや月1回の全体会議の時、研修内容を伝え検討する機会としています。	○	・月一回の全体会議が研修の場とし、職員間での情報の共有に努めています。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会主催の東尾張地区ブロック会議にホーム長が会ブロック長として参加し、ネットワーク作りや勉強会、研修会を行い、サービスの質向上に取り組んでいます。	○	・グループホーム連絡協議会が開催する研修会に職員を出席させ、他の事業者との連絡体制をつくっています。 ・近くにある別ユニットと、もっと交流を増やす。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・三カ月に1回程度の親睦を図る飲み会を実施しています。 ・気軽に悩みを聞いたり聞かれたりする環境づくりに日々取り組んでいます。	○	・飲み会だけでなく、ホーム長が職員のストレス・不満等について出来る限り把握するように、声かけしています。全体会議の終了後、昼食を共にして相互の信頼関係を築くよう努めています。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・日々努めていると思います。	○	・向上心に繋がるような情報を見つけ提案していきたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前には必ず本人と面談し、現在の生活の様子や過去・現在の嗜好状況等を伺い初期の信頼関係づくりに努力しています。	○ ・体験入所を一泊二日以上実施し、本人の不安などどこまで聴くことができるか別として聞く機会をつくる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前には必ず家族と面談し、必要経費の相談や具体的に困っている内容を聴き、そのうえでグループホームに期待すること等を伺い初期の信頼関係づくりに努力しています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談内容を参考に必要とする支援を検討して介護記録に反映しています。 ・グループホームに合う方か、特養が合う方か、医療を必要としているかなどを聞き取り、対象と外れていると思われる時は、より合いそうな施設の見学をすすめています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームでは、希望があれば利用者に体験入居してもらい、納得の上でサービスを受けられるようにしています。職員は、家族からより多くの情報を得ながら、利用者が新しい環境になじんでいくことができるように配慮しています。また、ホーム長は、その利用者宅へ訪問し、さらに詳しい情報収集に努力しています。	○ ・事前の体験入所、そして見学や話し合いを行いながら、本人が納得して入所できるように努めています。家族と連携を密にし、不安を和らげるようにしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、常に利用者の目線で一方的な介護にならないように、利用者の持っている能力を把握し、立場、尊厳を大切にして、楽しく快適に過ごせるホームを目指して支援しています。	○ ・利用者さんの状況に関らず、地域のなかで一緒に過ごす、学び支えあうという姿勢は持ち続けられるよう、研修などを実施する。職員全員が一方通行的なサポートにならないよう、理念を確認しながら自己コントロールできるようトレーニングをする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・お嫁さんから、入所に至るまでに親戚への了解をとるまでの苦労話など家族の立場に立って話を聞いています。	○	・お会いした時は、家族の思いや考えをもっと聞いていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・長男と本人、嫁さんと本人、ご家族と本人などこれまでの関係をことあるごとに話していただき、より良い関係が築いていけるように努力しています。	○	・お会いした時は、家族の思いや考えをもっと聞いていきたい。 ・全体会議で、利用者に対する家族の思いを職員全員で共有する。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の過去を大切にするような支援を積極的に行っております。	○	・職員は、利用者本人のなじみだった人、よく出かけていたところなどを把握し、地域の中で継続的に生活できるよう支援していきます。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・対立しあう二人を、二人だけにしないとか、スーパーへの買い物は交代で行い、行く前に買い物メモを書いていただく担当、行ってからは買い物メモを読む担当、食品を選び籠に入れる担当、レジでお金を支払う担当を決めるなど、常に共同作業に努めています。	○	・利用者一人ひとりの個性や性格を把握し入居者全員が助け合いながら生活できるよう見守りを中心に支援していく。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・入院することで退所された利用者のところへお見舞に行ったり、他の介護施設へ転居先へ面会に行っております。 ・退所されたご家族に年賀状を出しています。（亡くなられてからは出していません。）	○	・退所された家族へ、クリスマス会やイチゴ狩りなどの行事にお誘いしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は6カ月周期のグループ制を敷き利用者に寄り添い、日常生活をスムーズに過ごせるよう、共に生活する中で本人の希望や願いを汲み取るよう努力しています。	○	・利用者一人ひとりが、「何が楽しくて」「何が好きで」「一日をどのように過ごしたいのか」把握していきます。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者一人ひとりに担当職員1名以上あて、なおかつグループ検討し、できる限り把握に努めています。 ・入居前の情報を聞き取りし、書類ファイルも作成し直して、スタッフ全員に浸透するよう努めています。	○	・特に馴染みの暮らし方について、家族の協力を得て情報収集していく機会を作ります。 ・全体会議でスタッフ全員に共有できるようにしていきます。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの心身状態は把握出来ていますが、過ごし方については、できる限り努めていますが正直まだまだできていません。 ・トイレの電気のON・OFFなど、有する力をできる限り残していけるよう努めています。	○	・先ず一人ひとりの有する力を見つけていきます。 ・できることできないこと表を作成、更新をしています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・家族の意見も採り入れ、チームで作成した利用者ごとのケアプラン連絡票や毎月の申し送りノート、介護記録、さらに全体会議での意見交換をもとに、ケアプランを作成するようにしています。そのケアプランのコピーを家族に渡して、来訪時に意見を求め話し合いながら、納得のいくプランにしている。	○	・何か問題があれば、家族を巻き込んでスタッフ全員で解決するよう努めています。サービスの質の向上につながれば何でも実施していきたい。 ・介護にあたり、職員全員参加のチーム制を取り入れ、日常的なミーティングを通じて気がついたことを出し合い、ケアプランに反映しています。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・利用者ごとのケアプラン連絡票を作成、各チームで検討した後、全体会議で再度見直しています。トラブル発生(転倒し歩行困難)時には、現状に即したプランへ家族と相談しながら、プランの見直しを行って、ケアプランの変更、実践に取り組んでいます。	○	・職員全員参加のチーム制を取り入れ、日常的なミーティングを通じて気がついたことを出し合い、家族も巻き込んでケアプランの見直しをしています。家族がどんな些細なことでも、話していただけるような雰囲気づくりをしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各利用者ごとに毎日記録している介護記録や連絡帳を参考にして実践や介護計画を見直しています。・利用者の変化、気づき、問題にしてほしいことなど介護計画に反映しています。	○	・これまで通りきちんと記録する。 ・他のスタッフの記録はもれなく読む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・かかりつけ内科医については、契約時に確認しています。・定期健診・緊急時の通院介助は職員が対応はもちろんのこと、提携医以外への受診も行っている。必要時には、家族に代わって役所への窓口手続きも行っています。	○	・引き続き取組んでいきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・愛知県教育センターの異業種研修生を受け入れています。 ・月1回の歌謡ボラから、民謡、詩吟、手品などのボランティアさんの協力を得ています。	○	・活用できる地域資源を調査し時には見学などをしていきたいと思います。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のNPO法人や、デーサービス事業者の主催する行事に積極的に参加しています。	○	・引き続き取組んでいきます。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・利用者の現状や今後の対応について相談しています。	○	・引き続き取組んでいきます。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、提携歯科医に年2回ホームへ来てもらい、歯科検診を受けています。かかりつけ内科医により、月2回の往診を受けている利用者もあります。提携医については予約診療を受け付けてもらい、常に職員が付き添い、利用者の月平均血圧等を伝え適切な介助対応や指導に応じてもらっています。	○	・引き続き取組んでいきます。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・関係の良い専門医に受診している利用者がいます。	○	・医師を招き勉強会ができるよう努力します。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・薬の管理はもちろん排便、排尿等の健康管理から利用者の介助まで支援してくれます。イチゴ狩りなど家族ぐるみで参加してくれています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・ごく一部の医療機関のソーシャルワーカーと連携しております。	○	・医療機関のソーシャルワーカーと連携を密にしていきたいと思います。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、看取りの指針を示し同意を得ています。終末期はできる限りの介護にあたっていますが、点滴などの医療行為が発生した時点で、家族と相談のうえ入院の手続きを取ることにしています。本人も家族も共に終末期をホームで、と希望されたため、家族の泊まり込みにより支援したことがあります。	○	・家族、利用者本人にとって一番よい方法を選んでもらう。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・実際に起こった例を参考にチームの支援として共有している。 [例]肺がんを患い、生き苦しいときは市販の酸素ボンベで対処し、終末期には家族の希望で夜間のみ長男が寝泊まりして入院後三日で亡くなりました。	○	・かかりつけ医との連携に向けた話し合いの実施。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>・サマリーをより充実していくことはもちろんのこと、他の事業所に移っても引き続き安心して生活ができるように、電話にて引き継ぎしています。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>・常に利用者の立場に立って、利用者の尊厳、プライバシーを尊重した言葉かけや、支援を引き続き継続していきます。</p> <p>・トイレの扉を開けたまま支援しないなど、日常的に利用者の尊厳、プライバシーを尊重するよう教育に努めています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>・職員が一方向的に利用者に指示するのではなく、何がしたいのか利用者本人の気持ちを尊重した支援を継続していく。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>・職員は、日常的なスケジュールや決まりを優先させることなく、常に利用者の立場に立って、同じ目線で、できる限り利用者個々に合わせた支援する。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>・「髪を切って若くなってね」「その服オシャレだね」など声かけを忘れないようにしています。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか言われませんが、引き続き食べたい物を聞いてリクエストに応じていきます。 ・○と○ならどっちがいいですか、などと聞き方を工夫する。故郷の郷土料理などを調べたり家族に聞いたりして提供する。 ・調理ができる利用者は、職員と一緒にさせていただいております。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるようもっと支援していきたい。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄は食事と同様に大切なサインなので、できる限り自然に近いコントロールをしています。介護記録に排便管理欄を設け、本人の排せつパターンを考えながら、プライバシーにも注意し、時間を見てトイレ誘導しています。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの希望にあわせて入浴を楽しめるよう支援をしています。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1名なかなか寝れない利用者がありますので、睡眠記録を作り体調管理をしています。 ・冬季は暖房はもちろん、利用者と職員で湯たんぼのお湯を入れた後、布団の中に入れ安眠の支援をしています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の可能性を導き出せるよう支援する。 ・日々の家事などは役割を持っていただき、できていますが、食事作りがスタッフ主体になっている。 ・楽しみごとはほとんどできていない。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	<p>・利用者自身が理解して買い物していただけるようなムードづくりをしています。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	<p>・利用者の希望に出来るかぎに沿って外出支援をしています。</p> <p>・できる限り定期的に外出できるように機会をつくっていきます。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	<p>・イチゴ狩りは継続していきます。</p> <p>・今の勤務状況では難しいかもしれませんが、もう少し柔軟な対応をしてはどうか。利用者さんも、出かける組、留守番組に慣れていただけるかもしれないので。・お盆・年末年始は家族と相談し、出来る限り自宅等で過ごして頂いています。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	<p>・1回ですが、ハガキ作りからいただき、家族や親しい方宛て暑中見舞いをに出した。利用者全員が大変喜んでいただきましたので、継続していきます。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	○	<p>・引き続き取組んでいきます。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>・引き続き取組んでいきます。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の出入りにはチャイムで対応し、見守り重視のケアに取り組んでいる。職員は鍵をかけないケアの重要性は十分理解していますが、スタッフや利用者の状況によっては、施錠しているときもあります。近隣住民に理解を求め、地域での見守り、声かけや連絡をしていただくような関係づくりに努力している。	○	・日中玄関のカギは鍵をかけないようにし、職員全員で見守るように心がけています。・玄関先のフェンスは状況より、簡単な紐で施錠する時もあります。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・ふらつきのある方、徘徊のある方、暴力行為のある方の見守りは昼夜問わずプライバシー、安全に配慮し見守りを重視で行っています。 ・一人外出による苦い経験を生かし、利用者の様子を把握しています。	○	・引き続き取り組んでいきます。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者個人の持ち物は、なるべく本人管理に心がけておりますが、混乱につながるものや貴重品は、家族の了解を得るのはもちろんのこと、できる限り本人の了解を得て事務所で預かっていきます。 ・利用者にとって危険な物品（包丁・薬・洗剤等）は、鍵の使用や、職員事務所で管理しています。	○	・引き続き取り組んでいきます。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・防げる事故については万全を期して事故防止に取り組んでいます。 ・ヒヤリハットやヒヤリハットメモで管理し、職員間で情報を共有しています。	○	・引き続き取り組んでいきます。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員が、緊急時（発作・意識不明）の対処方法を習得するために、救急救命講習会にはメンバーを変更して毎年参加しています。幸いなことに1～2分で対応できる看護師がいる。	○	・引き続き取り組んでいきます。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難マニュアルを整備しています。非常音を合図に、利用者は各部屋の入り口にかけてあるヘルメットを付け、玄関へ集合する練習を月1回行っています。飲料水については1人当たり3L分やお米は常に30Kの備蓄をしている。また、その避難路へは物を置かないようにして、速やかに利用者が移動できるよう備えています。	○	・消火器の設置場所を表示するとともに、職員全員が把握をし、いざというときに利用できるようにしています。 ・避難の方法など再検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・職員は、一人ひとりに起こりえるリスク（転倒等）について、転倒経験した利用者や心臓停止による救急車の依頼をした利用者を中心に、かかりつけ医と相談しながら家族に説明しています。	○	・現病歴や既往歴、遺伝から来る病気による病状や危険性を来所時などに家族に説明しています。 ・他の利用者の勘違い等により発生する転倒事故など、共同生活において起こりうる事故を家族一緒に話し合う機会を設ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・利用者の持病など介護記録と同じファイルで整理し職員全員が把握もしくは、いつでも確認できるようにしています。 ・入浴時やバイタルチェックで異常があれば速やかに情報を共有し、看護職員と相談しながら処置をしています。また、必要生があれば、かかりつけ医と相談しています。	○	・止むお得不い事情がある時は、事後連絡でもよいから家族への報告しています。体調変化については、小さな事柄でも連絡帳にて全職員に周知しています。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬の説明書を利用者ごとにファイルして薬の目的など理解し、服薬の支援と変化の確認に努めています。	○	・服薬に関しては、看護職員の指導のもと適切に対応しています。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・看護職員の指導により水分を多く摂取したり、運動したりしています。	○	・看護職員が指導のもと便秘予防しています。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・歯磨きをしてくださいとお願いしても、自室に行くまでに忘れてしまわれる利用者には見守りや声かけをするなど、利用者ごとに応じた支援を心掛けている。	○	・食後の歯磨きや起床時、そして就寝前の歯磨きは毎回声かけをして、利用者全員見守り中心の支援をしています。 ・携歯科医に年2回ホームへ来てもらい、歯科検診を受けて口腔ケアと義歯の指導をお願いしています。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に「今日は何が食べたいですか?」と嗜好を聞くなど、栄養のバランスを考えながら献立作りをしています。透析している利用者も入所しており、特に摂取量(食物、水)を記録し、体調管理に配慮している。	○	・職員は、介護記録で利用者全員の食べたものや水分の摂取量を把握し水部摂取量が少ないときには、湯飲み茶わんやコップの大きさを変えるなどして水分摂取に力を入れています。 ・栄養バランスについては、献立表を参考にして偏りがないよう努めています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・マニュアルはいつでも目に付くスタッフルームの机にあります。 ・消毒は居間の洗面所と玄関に置いてあります。 ・毎食前には、手洗いを必ず行い消毒していますし、季節によってはうがいをしています。 ・月に1度消毒用エタノールで、トイレの手すりなどを中心に消毒しています	○	感染症予防のために、家族と相談して、利用者全員と全職員（会社負担）は予防接種を受けています。 ・これからも慎重に行い、感染症を広げないための情報を提供する。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所の消毒を洗剤やキッチンハイターで消毒しています。 ・新鮮な食材使用に心がけ、賞味期限などには注意を払い管理しています。	○	・食中毒防止のため水回りは毎日洗浄し、冷蔵庫の中についてもすべての食材について賞味期限や分量を把握し計画的に消費するよう努めています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・ホームの周りを歌壇にし、入りやすい環境づくりに工夫しています。 ・訪問客があればスタッフ全員が笑顔で対応しています。	○	・引き続き取り組んでいきます。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を、いけ花の得意な利用者により、玄関や居間を飾り、家庭的な雰囲気を味わっていただいております。共有スペースは、明るく広くゆったりとしたソファを、利用者全員分置いています。廊下の掲示板を利用し、レク行ったイチゴ狩りなどの写真や利用者が作った小物が飾り居心地の良い場所作りに配慮しています。	○	・生花など得意な方もいるので、玄関飾りにもっと利用者さんを巻き込んでいきたいと思えます。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気候の良い時は、玄関先のテラスで花火やコーヒー、秋には秋刀魚を炭で焼いています。 ・井戸端会議などは、玄関先の縁台や居間のソファでいただいております。	○	・引き続き取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間(6)と和室(3)があり、エアコン、物入れ、洗面台が、各部屋に備え付けてあります。居室内でベッドを希望する人は、長年愛用したものを持ち込んで頂いております。ミニタンス、調度品、趣味の人形、絵画、写真、アルバム等も持ち込み、一人ひとりの希望に合わせて穏やかに過ごせる環境づくりに取り組んでいます	○	・引き続き取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・入居者と相談しながらスタッフがエアコンの調節をしています。・湿度計、温度計は各部屋に設置し、居間には乾燥時期に限り加湿器を設置しています。	○	・引き続き取り組んでいきます。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物の全体がバリアフリーになっており、転びやすい利用者には、ご自分にあった履き物を工夫し用意しています。	○	・安心、安全を前提にトイレの手すりの位置はこれでよいのか、危険な物や場所は無いのかなど検討していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの表示を利用者の視線位置に低くしたり、お風呂場の表示を工夫しています。	○	・先ず利用者個々の「わかること・わからないこと表」を作成し、いかにしたら自立して暮らしていけるのか、どんな環境づくりが必要なのか検討し実施していきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・利用者と一緒に玄関先でサンマを焼いたり、窓格子を利用して採ってきた玉ねぎを干したりしました。	○	・玄関先や花壇、裏庭を利用して何か楽しいことができないか再度検討します。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・いつも「笑いがある暮らし」をモットーに、職員自分自身がよいと思ったら「その時々で、ベストを尽くせ」を合言葉に取り組んでいます。